

交通シミュレーション委員会 第4部会 第3回部会 議事録

日 時：平成 14 年 7 月 17 日 15：00

場 所：尚友会館 尚友会館 7 階 B 会議室

出席者：中野 敦〔(財)計量計画研究所〕

(敬称略) 児島 正之〔(株)千代田コンサルタント〕

坂本 邦弘〔埼玉大学〕

笹沼 慶与〔(株)長大〕

末田 俊久〔八千代エンジニアリング(株)〕

永田 尚人〔(株)熊谷組〕

毛利 弘道〔(株)オリエンタルコンサルタンツ〕

山本 郁淳〔(株)ドーコン〕

酒田(代理出席)〔鹿島建設(株)〕

- 資料：
1. 運営幹事会(第1回・第2回)での検討経緯の紹介
 2. 適用マニュアル 目次と記載項目案の紹介
 3. マニュアル案にたいする主な意見の紹介
 4. 第4部会の役割分担について
 5. 今後の部会の進め方について

第3回議事の内容

「適用マニュアル案」について

今後の部会の進め方

その他

1. 「適用マニュアル案」について(部会長 委員)

マニュアルのスケジュールはどのようになっているのか？

適用マニュアルは委員会の重要な成果の一つになるべきものであり、14年度中にドラフトを作成することになる。

内容は大筋で、桑原委員長案に沿っていくことになる。

適用マニュアルがカバーする範囲として、“動的”な“ネットワークシミュレーション”が中心、とあるが、経路選択のない場合は対象としないのか？

運営幹事会のなかで経路選択の有無については特に議論になっていないことから、経路選択をしない場合は対象としないといった話ではないと考えている。

「タスクのどこにシミュレーションを利用すべきか」については、シミュレーショ

ンの利用目的を、具体的に整理することから行う必要があるのではない。例えば、渋滞発生の有無を知るための旅行速度を知るためのものか等。

大規模小売店舗立地法関連業務におけるシミュレーション利用の推奨ケースについては、警察庁作成のマニュアルのなかにすでに存在する。ただし、あまり活用されていないようだ。

逆に「シミュレーションを利用すべきでないケース」を考えると、目的に対して「利用してもしなくても、どちらでもよいケース」は存在しても「利用すべきでないケース」などというものは存在しないのではない。

シミュレーションと利用目的の関係を含め「利用すべきでないケース」は、「シミュレーションを利用すべきか？」のところで整理されるのでは。

「シミュレーションを利用すべきか？」はシミュレーション製作技術者の視点であり、「タスクのどこにシミュレーションを利用すべきか」は計画や政策者等の利用者の視点で整理する必要があるのではない。

「利用すべきでないケース」が存在するとすると、それは利用目的（渋滞・交通量等）に対して存在するのではなく、データ精度等の前提条件の不備や不完全に対して存在するのではない。

ベストプラクティスについては、シミュレーションを使用した結果や成果を合わせて整理する必要がある。

事例としては存在していないが、適用すべき事例を入れても良いのではない。

事例収集の最終成果は当然のことながら公表“可”のみである。検討段階では色々な事例を紹介してほしい。

2. 今後の部会の進め方について

資料にもある通り、今後は、テーマごとに検討チームを決め、部会に議論のたたき台の案を出してもらう形で進めたい。

テーマのうち、適用マニュアルの第4部会担当部分に関連する部分については先行的に行う必要がある。

シミュレーションの認証については、その必要性からの議論が必要。必ずしも認証ありきではない。今後論点を整理する。

シミュレーションの活用は発注者の取り組みが鍵となることから、行政的な課題への対応として、今後、関係者を含めた課題の抽出と解決方法の検討に期待する。

各委員で担当テーマの希望があればメール、TEL等で部会長あてに希望を申し出てほしい。それを含めて部会長の方で役割のグループ分けを行い後日各委員に依頼する。

3 . 次回部会に向けて

次回の部会の前に部会長より、テーマ毎の検討チームのリーダーを決めて、依頼するので、次回の部会では、各チームのリーダーから、検討方針を提示してもらって、議論することとしたい。

次回部会の日程については改めて調整する。